



なみ き

埼玉県議会議員

無所属
県民会議
SAITAMA

並木まさとし



発行者
連絡先

埼玉県議会議員 並木正年
〒365-0038 鴻巣市本町 3-2-19-B
TEL 541-7777 / FAX 543-8000

日頃の活動は
ホームページで!

並木まさとし

検索

namikimasatoshi@soleil.ocn.ne.jp



65歳以上の高齢者へのワクチン接種が急ピッチで進んでいます。ワクチン接種は市町村が実施主体であるため県全体の実績はパーセンテージで表示できませんが、6月28日時点で1回目の接種が終わった方は約110万人で、2回接種済みの方は約38万人です。

鴻巣市では国のデータベースVRSによると、65歳以上の接種対象者37,102人のうち1回目接種済みの方が17,676人(47.6%)、2回接種済みの方が5,232人(14.1%)となっています。(6.28時点)

1回目の接種後に2回目の接種予約は3週間後の同日同時刻に自動予約となるため、これから1回目の接種をされる方と合わせると29,256人(78.9%)が予約していることとなります。

また、市にはこれまで69箱分のワクチンが配分されていますが7月5日と12日の週に第9クール分として9箱が分配される予定であり、配分される総計は78箱(91,260回分・45,630人分)となる予定です。

*1箱=1,170回分の接種が可能(6回接種できる瓶(1バイアル)が195瓶入り)

接種した人の割合

全国の接種状況(6.26時点)

(6月26日時点)

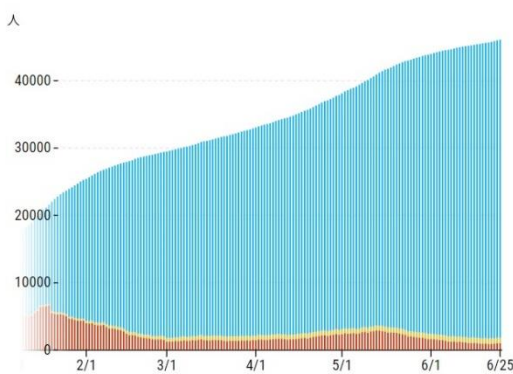


(6月26日時点)



埼玉県の感染者、回復した人、死者の数

■ 感染している人 ■ 死者 ■ 回復した人



都道府県	1回接種済み	2回	割合 (%)	人数
埼玉	18.6%	7.9%	18.6%	(1,375,966人)
千葉	19.2%	8.4%	19.2%	(1,212,565人)
東京	17.7%	8.1%	17.7%	(2,449,493人)
神奈川	18.5%	7.4%	18.5%	(1,701,929人)

オリンピック・パラリンピックの中止・再延期を求める請願について考える

新型コロナウイルスの再拡大が懸念されるが、オリンピック・パラリンピックの開催は G7 サミットの首脳声明で開催に向けた支持が盛り込まれたことで中止や再延期は非現実的になったと感じる。

5月の世論調査では「中止すべき」が59%、「無観客での開催」が25%、「観客数を制限しての開催」が13%であったが、6月に入ると「開催すべき」が50%、「中止または延期」が48%と拮抗しているものの開催への機運が日を迫るごとに高まりつつある。

2020年の夏に照準を合わせてきた選手やスタッフは心の整理がつかない中でも1年後の開催を信じ、人生を懸けて必死に挑戦を続けてきた。パラリンピック選手も同様で、自らの障害と戦いながら懸命な努力と身近で支える家族のサポートから希望を捨てずに挑戦してきた。

また、県民や自治体、企業においても誘致決定以降、開催に向けた様々な取り組みや投資を重ねてきている。

6月最後の日曜日におこなわれた陸上の日本選手権でオリンピック出場を勝ち取った選手の涙からはこの夏のオリンピックの開催と出場を一途に目指してきた苦悩が見てとれた。開会式前に競技が開始されるサッカー・ソフトボールまで僅か20日足らずであり、これから代表選手が決定される種目もある中では、アスリートファーストの視点であらゆる感染対策を徹底し、海外選手団の水際対策強化など、誰もが安心安全な開催と思えるよう取り組むべきである。

選択的夫婦別姓制度の意見書を国に提出することを要望する請願について考える

この請願に対しては個々の概念にとらわれず会派内でも多くの時間をかけて真剣に議論し、自由闊達な意見をまとめたうえで趣旨採択との結論に至った。言うまでもなく、世論の高まりや不利益を生じている方々の思いから会派内では賛否拮抗する状況であった。

政治や法律に求められる目的とは、誰もが安心して不自由なく活躍できる社会を実現することであり、今、急速に変化している社会情勢や多様化する価値観などから望まない改姓による不利益やその苦痛によって選択的夫婦別姓を求める願意は大いに賛同できる内容である。

また、民主主義の基本は個人の価値観を尊重することであるように、社会においては制度や慣行が活動の自由な選択に対して影響を及ぼすことがないよう配慮されなくてはならないと考える。

選択制を法制化するか否かは国会で大いに議論されるべきであるが、今回の請願は「導入に向けた」との文脈があることは法制化の推進であり、導入に否定的な意見や慎重論も考慮するべきと考える。



日本の女医第1号の荻野吟子、幼くして視覚に障害を持ちながら群書類従を刊行した塙保己一、近代日本経済を築いた渋沢栄一は埼玉県の3偉人です。県では栄一の軌跡と共に観光振興に予算を支出していることから、NHK大河ドラマ「青天を衝け」で脚光を浴びている渋沢栄一記念館・生家(中の家)・大河ドラマ館を会派で視察しました。渋沢家は藍玉の生産で約10億円の年商(現在の価値)がある裕福な家庭でしたが、利益より道徳を重んじる教育方針であったようです。大河ドラマ館は改修などで市が約4億円の予算を投じたようですが、まさに公益を重視した論語と算盤の考えです。公益を追求する道徳と利益を求める経済が事業において両立しなければならないという渋沢翁の教えは行政運営にも共通するものだと思います。



昭和45年鴻巣市本町生まれ/鴻巣幼稚園/鴻巣東小学校/鴻巣中学校/埼玉栄高校(サッカー部)/亜細亜大学経済学部国際関係学科卒/セントラルワシントン大学AUAP課程修了/鴻巣幼稚園保護者会副会長/鴻巣東小PTA副会長/鴻巣市商工会青年部第31代部長/第8回このす花火大会代表/鴻巣市消防第2分団員(24年目)/鴻巣市議会議員2期/埼玉県議会議員2期目/会派無所属県民会議/総務県民生活委員/経済・雇用対策特別委員/家族:妻・長女・長男・愛犬レオ

プロフィール